九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

南野 森（編）『ブリッジブック法学入門』はしがき

南野, 森
九州大学大学院法学研究院 : 准教授

https://hdl.handle.net/2324/15525

出版情報：ブリッジブック法学入門, pp.i-iii, 2009-05-15. 信山社出版
バージョン：
権利関係：

はしがき

この本は，一風変わった『法学入門』である。

法学部や法律学科，あるいは法科大学院などに入学したばかりで，これから法学を学び始めることになる人びとや，もう一度基礎から法学を学び直そうと考えている人びとを主たる読者として想定していることは，世の中に多数ある『法学入門』『法律学入門』といった書物と異なるところはない。本書の執筆者が法学部の教員であることや，法学を専攻する研究者であることもまた，類書と同様である。

一般的にいって，法学入門の教科書や講義では，法学を学ぶうえで最低限知っておくべきことがらが解説され，そのうえで，さまざまな法学の個別分野についての簡単な紹介がなされるのがふつうである。法学の基礎的な知識を法学入門において解説すべきことには異論がないが，そのうえでさらに何をどのように教えるべきかについては必ずしもそうではない。全国各地の大学で実際に法学入門を担当する教員は，多かれ少なかれこの点について悩んでいるはずである。

また，いくつかの恵まれた大学においては，法学入門の講義は，数十年にわたって法学の教育と研究に携わってきた経験を有し，まもなく定年を迎えるという「大家」が担当し，その長年の研鑽を踏まえて「法学とは何か」を熱く語るという，贅沢な空間も存在する。そしてそのような「最後の授業」から生まれた文字どおりの名著もいくつかある。本書を執筆したわたしたちは，もとよりそのような大家ではなく，まだまだ「若手」だとの自己認識をもつ者の集まりであるし，なによりもそのような先達の作品からわたしたち自身が多くを学んできたところである。それゆえわたしたちは，そのよう

な名著の価値を否定するわけでは毛頭なく，むしろそれらは不朽の名著であると考えている。そこでわたしたちは，そのような名著の真似をすることではなく，そのような名著に取って代わろうとすることでもなく，それらに加えて初学者がもう1冊読むべきものとして，本書をつくることを目指した。

本書は，その内容を大きく前半と後半とに分けたうえで，まず前半〔基礎編〕には，法学を学ぶすべての人が当然に知り理解しておくべきことがらを5つの章に分けて配置し，後半〔展開編〕には，法学の個別分野を研究するそれぞれの執筆者が各自の研究関心に従ってテーマを選択し，それを初学者にもわかりやすく解説することを目指す8本の「論文」を置いた。つまり，本書の後半は，いわば「論文集」となっている。そしてそれらの扱うテーマは，法学の主要な個別分野を網羅するものには必ずしもなっていない。

これが，本書の「一風変わった」点である。

わたしたちは，法学入門として法学の個別分野それぞれについての簡単な紹介や解説を寄せ集めるスタイルには，さほどの教育効果がないと考えている。各分野についてのいわばガイダンス的な説明は，いずれにせよ各分野の講義や教科書の冒頭でなされるはずであるし，全分野を網羅的に「専門」としている人間などおよそいるはずもないから，どうしても担当者の専攻分野ではない領域の話になると常識的な通り一遍の解説にならざるを得ないであろう。そうだとすると，そのような法学入門では法学の深みや面白みを十分に伝えきることはおそらくできず，その結果，意気軒昂として法学の勉強を始めた初学者は，急速に情熱なり興味なりを失ってしまうことにもなりかねない。

わたしたちは，大学における教育者であると同時に研究者である。それぞれ法学の個別分野を専攻しており，その研究に日々格闘しながらも喜びを感じている，そもそも一風変わった人種である。そし

てその研究の成果を教育に活かすことがわたしたちの使命であるとも考えている。どのような課題と取り組み，どのようなことを考えているのか，その具体的な内容の一端を初学者にもわかりやすく解説することで，法学の世界に魅力を感じて貰いたい，というのが，要するに本書をつくった動機である，ということになる。

法学の基礎的な知識を前半で身につけた読者は，後半の各「論文」をじっくり読み，それと知的に格闘することで，いつのまにか法学の世界の魅力にとりつかれ，そしていつのまにか法学の世界の「作法」を身につけていることであろう。そのうえで，各個別分野の教科書や論文，そして講義と向き合っていくならば，読者の能力は大きく伸びるであろうと思う。法学の勉強の方法は，第一に読むことであり，第二にも読むことである。本書の後半は必ずしも簡単な内容ばかりであるとはいえないが，ぜひ腹を括って熟読してほしい。

本書がこうして出来上がるまでには，多くの方々のお世話になった。なかでも信山社の鳥本裕子氏と渡辺左近氏には，驚嘆すべき熱意と忍耐強さで本書の作成を支えていただいた。また，本書のドラフトにもとづいた講義に出席し，本書のドラフトについての貴重な意見や感想を寄せてくれた九州大学法学部の2008年度前期「法学入門Ⅰ」の受講生諸君には，わたしたちだけでは到底気づき得なかったであろうさまざまな観点にわたしたちの目を開かせていただいた。ここに記して心より感謝する。

2009年4月

編　者